

先生から選手へメッセージ

センバツを振り返って

赤鬼の春 文 66



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

部長

松林基之先生

部長の松林基之先生は「このセンバツでチームが一回り大きくなったと思う。まだ足りない所も見つけられたので、夏への宿題をもらった気がする」と甲子園を振り返られた。「監督には技術的なことの指導をもらって、自分はスムーズに運営できるように学校や報道機関との調整をし、選手たちにはなるべく負担がかからないようにしていた」とセンバツでのサポートについて話された。先生は今後へ向けて「春は県大会で優勝しないと近畿大会に出場できない。滋賀には今回センバツに出場した近江高校や膳所高校以外にも強いチームがたくさんあるので、そこに負けないようにしっかり準備し、もう一度甲子園に出場できるように頑張りたい」と意気込まれた。

顧問

成宮翔磨先生

「大舞台で自分たちの力を発揮できた人もできなかった人もいたが、普段と変わらぬ姿を見せてくれた。甲子園に立つのに相応しい人間に育ったと感じ、感心させられた」とセンバツを締めくくられた顧問の成宮翔磨先生。先生は普段のサポート内容を「選手たちにはノックや技術指導をしてきた。練習の取り組み方や学校での練習についての意識など、精神的な話もしてきた」と明かされた。また今大会で心に残った場面を「2回戦で慶応高校に2-1で逆転されたとき、気持ちを切らさずに失点を2点で抑えた場面が特に印象に残っている」と話された。最後に選手に向けて「大好きな高校野球を思う存分頑張ろう」とメッセージを送られた。

顧問

間宮真由美先生

顧問の間宮真由美先生は今回の甲子園を「すごく良い試合をしてくれた。大応援団に応援していただいて、とても充実した大会だった」と振り返られた。また印象的だった場面を「ピッチャーの投げ合いで、増居君が踏ん張って投げていたのが印象的だった」と話された。春の大会について「自分たちの野球をいかに落ち着いてできるかが重要。調子に乗らず、足元を見つめなおして夏に向けて練習に取り組んでほしい」とアドバイスをされた。最後に選手たちに向けて「本当に良い野球がで

顧問

山根寛治さん

きていた。きっと夏も自分たちの実力を発揮してくれると思う」とエールを送られた。



花巻東戦では3塁側アルプスから大きな声援が送られた。

トレーナーの山根寛治さんは甲子園での試合を「センバツで一勝できてうれしい。3回戦では増居が神ピッチをしてくれたが、打線があまり援護できなかった。夏に向けて打線の強化が必要だと思う」と振り返られた。さらにセンバツでのサポートについて「サポートが大変と感じることはないが、限られた時間をどう使うかに気を配っている。気持ち沈んでしまうとプレーにも影響してしまうので、ベンチを盛り上げるように意識している」と話された。山根さんは甲子園で印象に残ったことを「増居が三振を取ったときのスタンドの盛り上がりがすごかった。花巻東戦ではスタンドから声がこぼまっています、本当にびっくりした」と微笑まれた。「増居が連投できないこと、打力が足りないことがわかったので、夏に向けて練習を頑張りたい。3季連続甲子園を目指したい」と夏を見据えられた。